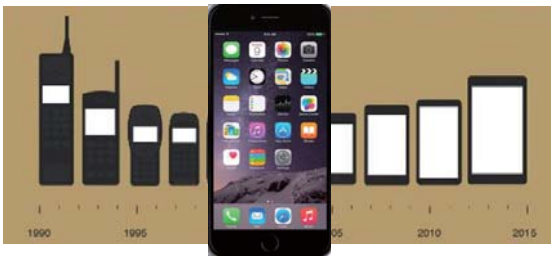
電子パスの問題点と今後の課題

～医師の立場から～

四国がんセンター　浅木彰則

15年くらいの間に携帯電話は、スマホに進化した。



- 電話以外に多くの機能を持つようになった。
- 多くの人と情報共有が可能となった。
- すぐに検索できるようになった。

便利になった反面、煩わしさも増えた！？

時代とともにパスも進化

医療に求められる要求が増加し複雑になった。

紙パス　→　電子パス

- 情報伝達能力が向上
- 多くの機能が加わった。

☆処理しないといけないことが増えた。
☆ごまかしがきかなくなった。
☆パスの進化に医療現場がついていけてない

かつての便利グッズではなくなった！！

パスに対するぼやき

- パスを使うと
- 楽になった気
- せっかくある
- パスの使い方

- パスがないと
たことは
していないとい
- 誰かが作って

Q1　なぜパスを推進するのか？

病院・医療従事者のメリット

- 医療の標準化（質の保証）
- 質の高い医療
- 新人職員や患者への教育ツール
- 在院日数の短縮

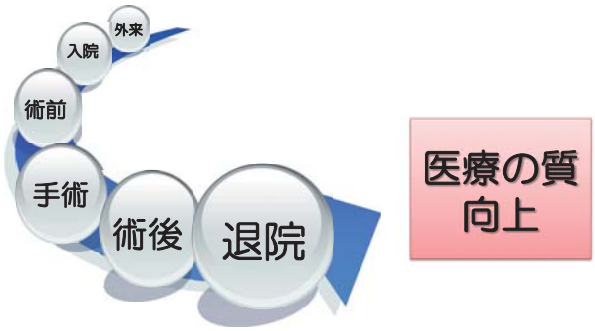
理想的だが
実感がない

患者・家族のメリ

- 入院中の経過や治療内容
- 安心して質の高い医療を

うなづける

クリニカルパスはチーム医療を推進



チーム医療のためと考えると納得しやすい

医師のメリット

・専門の職種に任せることで、安心して手術や検査・処置に専念できる。術前、術後の安心感。

医師以外のスタッフのメリット

・医師の指示を待たなくても、それぞれの職種が決められた仕事をすすめていくことができる。

多くの職種と関わることで患者さんも安心

- 患者の安心感
- チーム医療
- 医療の質の向上

実務担当者の利便性向上のためではない！！

Q2　パスのなかで医師の役割は？

医師のクリニカルパスへの関わり

医師はチームリーダーとして多くのメンバーの動きを見守り、意思統一をはかり最善の治療が遂行されるようにプロセスを管理しなければならない。

しかし、多くの医師はそんな余裕はなく、責任は負いたくない。

・パスの審査も通っているのだから、パス通りでしていれば、何かあっても自分に責任はない。

パス作製者、パス委員の負担増！

医師が実際に関わるパスの中身

☆アウトカム（目標）の設定

☆医師オーダーの入力

①検査
②治療
③投薬
④処置
⑤医師指示

＊一番の役割は、手術や検査・処置！！
治療・処置がうまくいかないとパスもうまく回らない！

Q3　医師にとってのメリット、デメリットは？

メリット

- 新人の先生でも、同じ質の医療が担保。
- 医師指示、点滴、検査などが一度に入力できる。
- パスを使うと他の職種が、いつもと同じように動いてくれる安心感。
- 患者用のパスもあり患者教育が充実。

デメリット

- パス運用による雑務の増加
- パスに慣れるのに時間がかかる。
（使用しない機能や画面、パス特有のルール）
- 安心しすぎると危険。
「パス通り」ではいけない場合がある。
- パスのために負担が増加してる可能性
（入力担当者、パス作製担当者、パス委員）

今後の課題

今後、少子高齢化でマンパワーはますます不足！

- 今、使っているパスの見直し
- 無駄な項目を省く
- ステップの多い複雑なパス　→　シンプルなパス

効率化！

- わかりやすい
- 使いやすい
- 時間を短縮できる

実務担当者がパスを使うと楽だった！！

電子カルテも進化が必要

- 直観的にわかりやすい画面！
- クリック回数を減らす工夫！
- クリック後の待ち時間の短縮！

結論

・多くの職種と関わりチーム医療を行う上で電子パスは医師にとっても有用である。

・今後は、現場の負担を減らして利便性を向上させる必要がある。